

Once upon a time in Utsunomiya

# 一枚の絵葉書から 第56回

石井敏夫コレクションより

# 宇都宮市及 第十四師団全図

※今回は絵葉書に代わって地図を掲載しています



宇都宮市北西部を中心に点在する軍施設。主な軍施設は以下の通り。第14師団司令部衛戍病院（現国立病院機構栃木病院）／師団長官舎（現地方合同庁舎）／憲兵隊本部（現県税別館）／宇都宮借付社（現桜美公園周辺）／野砲兵第20連隊（現文星大学附属高校周辺）／輜重兵第14大隊 騎兵第18連隊（現作新学院）／兵器支隊（現県立中央公園周辺）／歩兵第59連隊（県営若草団地周辺）／歩兵第66連隊（現県立中央女子高）／衛戍監獄（現少年鑑別所）／射撃場（現駒生運動公園）

宇都宮が軍都と呼ばれた時代があった。軍都とは、文字通り多数の軍事施設を擁する都市を意味し、併せて地域経済が軍の

消費によって支えられた都市を指す。千葉、広島、熊本などが軍都の筆頭といつてよい。宇都宮も第十四師団の衛戍地となったとき

から、県都の顔を軍都に変え師団と盛衰を共にしたのである。

一九〇七（明治四十）年九月、第十四師団の宇都宮駐屯が正式決定されると市内は祝賀一色にわきかえった。駐屯地に選ばれた旧国本村宝木一帯には衛戍病院を皮切りに、司令部（現国立病院機構栃木病院）や兵営が次々と建設され、翌〇八年三月には駐屯の先頭を切つて歩兵第六十六連隊（現県立中央女子高）が到着入営した。続いて同年十一月には鮫島重雄師団長ら各部隊が到着。一九〇九（明治四十二）年五月には主力である第五十九連隊（現県営若草団地一帯）が到着し移駐はすべて完了した。

師団の移駐により一九〇六（明治三十九）年に三万三千人だった市の人口は四万人を優に超え、軍が落とす金により経済は活性化した。市の年間予算が四十万円の時代に、師団の宇都宮関係だけでも年間予算百五十万円余。入営、除隊など兵隊目当ての「軍隊商い」も盛んに行われるようになった。